『第 1 回 CS―NET サロンのご報告』
―まずは横のつながりを―

研究支援委員会　委員　姜　民護（同志社大学）

去る2022年11月26日（土）14時から16時までの2時間、オンラインにて「第1回CS-NETサロン（以下、本会とする）」を開催しました。「研究助成―獲得の苦悩と工夫―」を題とした本会では、「CS-NET（Creative Support Network、初期キャリア研究者のネットワーク）」と「サロン（初期キャリア研究者が気軽に交流する場）」というキーワードにふさわしく約45名の初期キャリア研究者が参加され、リラックスした雰囲気の中で楽しい交流が行われました。

本会は、2部構成で行われました。日本社会福祉学会研究支援委員会CS-NETサロン企画を担当している保田真希委員より「サロン企画の紹介」があった後、第1部では、3名の報告者より、それぞれ20分ずつの話題提供が行われました。話題提供は1回目の企画ということもあり、参加者の方に負担をかけないという意図で、研究支援委員会委員の姜民護（同志社大学助教）、子安由実子（日本福祉大学博士後期課程兼社協職員）、保田真希（北翔大学准教授）が担いました。

まず、姜が「単独研究と共同研究―研究分担者・研究協力者も視野に―」というタイトルで話題提供を行いました。単独研究として研究費を獲得することの重要性は言うまでもないが、研究分担者・研究協力者として研究費を確保する方法もあること、そのためには多くの研究交流会（学術大会など）に参加し、自己アピールする（〇〇という研究や役割が果たせるというアピール）ことが重要であると語りました。次いで、子安委員は「全ては人との出逢いと繋がり」をタイトルに、「研究費のない中で取り組める研究活動」について語りました。具体的には、研究に理解のある上司に相談・協力を得て、研究対象者の同窓会報に調査票の同封ができたこと、郵送料は料金受取人払いを申請し、返信された分のみ負担できたことなどのコストを減らすための工夫が語られました。多くの初期キャリア研究者が研究費のない中でアンケート調査やインタビュー調査を進めており、経済的負担で悩んでいることを考えると、子安委員の経験談は、初期キャリア研究者にとって実際に役に立つ貴重な内容であったと言えます。最後に、保田委員は「研究助成を獲得するまでの経験」として、博士前期課程・博士後期課程・就職後という3つの時期における研究費の獲得経験やその中での挫折と工夫について話しました。研究者番号のない博士前期・後期課程の院生や一部の研究員などは、公益社団法人などの民間団体の研究助成にチャレンジすることになります。例えば、民間団体の研究費を獲得するにあたって研究助成の目的はもちろん、「民間団体のこれまでの歩みやこれからの方向性」を把握することが非常に重要であることに気付き、最終的に研究費を獲得したという成功経験は、参加者に大きな示唆を与える内容でした。

第2部では、話題提供の内容を踏まえて、4名程度の小グループに分かれて情報交換会が行われました。ファシリテーターの進行のもとで行われた情報交換会では、研究助成を巡る経験談などが交わされました。具体的には、「研究助成に申請したことがあるが、不採択だった」「どこから研究助成に関する情報が得られるかすら分からない」「科研費や研究助成の申請書について助言・意見をも

らえる環境ではない」などが話題として取り上げられました。また、「同じ研究領域の初期キャリア研究者との交流の場が欲しい」「論文執筆や投稿、査読に関するセミナーを開いてくれたら有り難い」「子育てと仕事、研究者のワークライフバランスについて話し合ってみたい」「研究倫理に関する情報がほしい」など、CS-NETを含む学会への要望も多く語られていました。

以上のように第1回のCS-NETサロンでは、その趣旨にふさわしく「気軽な雰囲気の中で初期キャリア研究者同士の交流」ができたと思います。その中で、多くの参加者が語った「周りに悩みの共有ができる人がいない」という一言がずっと心の中に残っています。数年前に、あるセミナーにおいて院生の指導経験の豊かな教授に「院生への指導をどのようにされていますか」という質問がありました。これに対して、その教授は「院生同士のディスカッションを重視している」と答えました。この答えを聞いていたある初期キャリア研究者が「学校によってはゼミ内だけではなく、大学院自体に院生がほぼいない場合もある」「院生同士のディスカッションができる環境が羨ましい」とコメントしたことを思い出します。このような出来事から、私を含めて多くの初期キャリア研究者が真に求めているのは「研究者としての悩みが共有できる仲間」、つまり「横のつながり」ではないかと強く感じています。このようなニーズに応えるためにも、初期キャリア研究者同士のつながりを促すCS-NETサロンを継続していきたいと考えています。

最後になりますが、お忙しい中で第1回のCS-NETサロンにご参加いただいた方々、中でも、突然のお願いにもかかわらず、ファシリテーターの役割を担っていただいた方々に改めて感謝申し上げます。